

2004年度「特色ある大学教育支援プログラム」実施報告書

立命館アジア太平洋大学

取組の概要

本補助事業の最大の目的は(1)異文化コミュニケーション能力を向上すること、(2)日本語および英語の高度な言語能力を育成すること、(3)政策志向の専門力量を育成することを通じて、21世紀の国際社会で活躍し得る学生へ成長を遂げる仕組みの構築と支援である。平成16年度は、本学のマルチカルチュラルなキャンパス環境を活かし、上記3点の育成目標に到達する基礎整備として、教育・学習の質的な向上を目指した取組みを重点的に行なった。具体的には、定学年次から履修する 言語教育科目(英語)、 言語教育科目(日本語)、 1回生演習科目において、大学で学習を進めるための基礎力量育成の仕組みづくりを重視し、教材・コンテンツ開発環境の整備による確かな学力を身につける教育内容づくりをした。それぞれの実績概要は以下の通りである。

言語教育科目(英語)

英語コースでは、統一教材・統一評価を実施することを目標とし、英語教員の中から英語教材開発チームを組織し、必要な文献を購入して開発にあたった。各コースの受講開始レベルについてはレベル間の調整を踏まえて目標値としての TOEFL スコアとの関係を整理した上で、チームごとにテキスト、コンテンツを開発している。コンテンツ開発に際しては、他大学の先進事例調査結果も踏まえており、他大学の英語カリキュラムや教育プログラムも参考に開発を行った。

初級レベルの英語 では英語技能(特にリスニングとスピーキングに重点)を伸ばすことを念頭において、Unit (Chapter) Outline, Pre-reading questions, Listening quizzes, Speaking exercises, Role play, Mini drama, Vocabulary quizzes, Video and questions, Timed-reading, Presentation を取り扱うテキストを開発した。

中級レベルの英語 では、当大学の英語教員有志(当教材開発チームメンバーも含む)で開発改良してきたテキスト「Your World: Global Issues for English Learners」のコンテンツ開発を行った。これには、本版とオンライン版があり、この両方を使って学生の英語力を伸ばすことを主眼に置いている。特にこのオンライン版(e-text)は、ネイティブスピーカーによるテキストの読み上げ、小テスト、オンラインアクティビティ、サウンドスペリング(発音練習)、インターネットによる情報収集等のさまざまな機能を有している。このオンライン版を使えば、学生が自分のインターネット環境で文字通り24時間いつでも学習でき、現在のEラーニングの最先端をいくものである。さらに、授業支援として、Unit (Chapter) Outline, Speaking exercises, Role play, Vocabulary quizzes, Video and questions, Presentation Festival を取り扱うテキストもあわせて開発した。

言語教育科目(日本語)

日本語コースでは日本語初級Ⅰ、Ⅱ、中級、上級Ⅰ、上級Ⅱの体系的な教育シラバスを整備した。また各コースで使用するテキスト教材の改訂・開発を行った。日本語初級Ⅰ、Ⅱ、Ⅲではこれまで開発したテキスト「J-ラーニング」および補助教材の開発を行い、日本語中・上級においては、「キャンパス・ジャパニーズからアカデミック・ジャパニーズへの教育の確立」をテーマとしてテキストの開発を行った。なお「キャンパス・ジャパニーズ」とは「一般の大学生が大学キャンパス内・外において日常生活を送る上で必要とされる日本語」であり、「アカデミック・ジャパニーズ」とは、「大学・大学院等での専門分野のみならず、卒業後の職業生活や社会生活で営まれる知的活動に必要とされる高度な日本語」である。

1 回生演習科目

1 回生演習科目では導入期教育の一環として大学への帰属意識形成ならびに学習への動機付けを行うとともに、知識獲得、経験、情報発信を軸として政策志向・課題解決型学習を行うっていくために最低限必要な学習スキルの獲得を目指してテキストを開発した。

取り組み成果

言語教育科目(英語)

2005 年度からの使用を目指して英語コースの教材を開発したことにより、具体的成果として幾つかの点が上げられるが、特に(1)統一教材(テキスト)の開発、及び(2)統一評価への道を開いたことが最大の成果といえる。

1. 統一教材(テキスト)の開発

これまでは、同じような教材を使っているにもかかわらず、個々の教員の自由裁量の部分が大きく、運用や指導に幅があった。それは、経験を積み良い指導法を駆使して授業する教員と、そうでない教員との間には、学生の上達度に差が生じるという場合もあったことを意味する。しかし本年度のコース教材の開発においては、どのような教材や器材を使い、どのようにそれを教えるのか、それはどの技能を伸ばすように意図されているのか、あるいは、どの程度の時間をそれにあてるのかといった細かい点にまで言及するかたちで新しく開発をしている。それにより、クラス間の差を最小限にし、どの教員のクラスを学生が履修しても、ほぼ同じ質または同じ内容の授業を受けることができるよう、より標準化された学習環境を整えた。また受講生の表現力あるいは流暢さが向上するよう、Journal Writing をコース全体のカリキュラムに組み込んだ。また Speaking 技能あるいは統合技能の目玉としての presentation においても、統一的課題設定ができるようになっている。

さらに、実践的な Listening 力の向上を目指し、コース内容に合わせたバラエティ豊かな英語を録画した Video 教材を作成した。またそこでは Next Generation TOEFL に対応可能なコン

テンツも付け加えている。Skimming や Scanning も視野に入れた DR-TA method と呼ばれる方法であり、Reading 技能を伸ばすようにしている。これは、Listening 技能向上にも援用できる方法で、実際 Listening 領域では DL-TA method と言い換えられる。これらのコンテンツ開発を踏まえて今後、学生を指導する。

英語 2 コースの成果の特筆事項としては、「Your World」テキストの使用による成果があげられる。これは従来の本版のテキストだけでなく、E ラーニング用のオンライン版を使うことにより、学生が 24 時間いつでも自己学習できる点を前提にしている。従って学習意欲の旺盛な学生や、時機を得た指導によって、本版だけによるテキストに比べると、格段の利用価値がある。この E ラーニングではテキスト読み上げ機能や発音練習機能により、授業時間以外にもネイティブの指導を何度でも満足いくまで受けることが可能であり、日常的に学生の英語力の向上に寄与できる。またテキストの内容に即したオンラインクイズやオンラインアクティビティは、100% 完全にできるまで何度でも挑戦できる仕組みとした。加えてレポートやフィールドワーク等の課題に対するサポート機能として、資料収集のためのリンク集も備えつけた。

2. 統一評価の実施

上述したように、授業で個々の教員の自由裁量の部分が多いということは、学生の学習到達度評価に対しても、以前はクラス間でばらつきがあったということである。教え方や学習の強調点の置き所が違えば、それに伴って評価基準も違ってくることはおかしいことではない。実際、同程度の英語レベルの学生でも、クラスが違えば必ずしも同じ成績を受けるわけではなかった。しかし、今年度から、教材や教え方を統一しており、その評価基準についても、教材や教え方が同じものであれば基本的に同じものになる。この点はこれまでの英語教育と比較しても格段の進歩であり、英語プログラム自体の信頼性を高めるものといえる。

言語教育科目(日本語)

1. 「アカデミック・ジャパニーズ」教育のための基礎的資料のデータベース化およびテキスト開発

アカデミック・ジャパニーズの教材開発にあたり、大学内・外の知的活動領域で使用される日本語の言語分析を通して、教育項目を明らかにする必要があった。そのため日本語上級に付接する講義で、日本人学生と国際学生を対象とした 2000 年度開講の一般講義と、2002 ~ 2004 年度の留学生のみを対象とした講義のデータベース化を行い、教材開発の理論的枠組みとするための基礎的資料として活用した。その上で基礎的資料およびその他の資料、他大学への実践例の調査を踏まえて、アカデミック・ジャパニーズの語彙分析を行い、アカデミック・スピーキングの特徴分析を行った。その成果は『国境を越えて』[本文編]一部改訂テキスト、『国境を越えて』[タスク編]改訂版テキストに取り纏め、テキスト内容の改善をはかっている。

2. 「キャンパス・ジャパニーズ」教育のためのテキスト開発

アカデミック・ジャパニーズの基礎となるキャンパス・ジャパニーズの教材開発では、これまで使用している日本語中級テキスト『世界の中の日本』所収の読解教材について学生の学習実態を踏まえて改訂版を作成している。またこれまで使用している日本語中級テキスト教材である『世界の中の日本』の音声 Web CT 版、漢字語彙練習用 Web CT 教材、本文理解のための予習・授業用 Web CT 教材を作成し、WEB を通じた日常的な学習環境を強化した。これらについて 2005 年度より本格的に学生に使用をさせ、いっそうの改善をはかることとする。

3. 「アカデミック・ジャパニーズ」音声 CD 版の作成

アカデミック・ジャパニーズに多用される漢字語彙の意味理解だけでなく、正しく読めて発音できるようにするために、『国境を越えて』改訂版の一部の音声 CD 版を開発した。これは、非漢字圏学生の漢語系語彙学習だけでなく、漢字圏学生の漢字語彙の発音学習にも大いに資するものである。また、音声言語によるコミュニケーション能力の教育、および学生自身による自習の促進にも大いに活用でき、アカデミックなコミュニケーション能力のさらなる向上が期待される。

4. 日本語導入教育用のテキスト開発

日本語初級においては、主教材として使用しているテキスト（「Jラーニング Part 1」、「Jラーニング Part 2」、「Jラーニング Part 3」）の改定作業および WEB 教材も含めた補助教材の充実を図っている。テキストは昨年度までの使用によって学生から出された質問や教員にとって利用しにくい点の修正、練習問題の見直しおよび、イラストの加筆などを行っている。WEB 教材に関しては動画や音声を入れた練習問題を作成し、学生に使わせて、不具合の修正などを行った。その成果として、これまでは来日時の日本語習得状況にばらつきにより基礎の復習となるコース開始一ヶ月間で日本語能力の差が広がっていたが、日本語運用能力の下位レベル学生についても基礎の復習が確実に行えるようになっている。

1 回生演習科目

1 回生演習科目を受講する全学生に対して、情報の収集（知識と経験、リーディングなど）、分析（情報整理、批判的・論理的思考力など）、発信（課題設定、論理構成、ライティング、プレゼンテーションなど）の方法を理解し、大学での学習に不可欠な基礎的スキルを身につけるテキスト（「WAYS TO GO!」）を新しく作成している。このテキスト作成に際しては関連教員にヒヤリングを行い、導入期教育として学生が身につけるべきスキルを纏めており、2005 年度より実際の授業で利用をすることが可能となっている。